

新刊紹介

淡路園治郎
牛島義友 共著
吉田虎彦

幼児發達検査

此の頃メンタルテストを時々行つてゐる幼稚園が大分方々にあると言ふことで、幼児研究の盛になつたといふ點、非常に喜ばしいことである。しかし、その目的がやゝもすると小學校への入學準備である事が多く、これは子どもの爲にはさぞ迷惑であらうし、廣く教育の立場から云つても見當違ひの様に思はれる。こんな目的でなしに、子ども一人一人についてその心身の發達を充分科學的に研究することは何をおいてもし度いことである。それであるのに、さう考へ乍らも日々の保育に追はれ勝ちの保姆がさてテストをしようとなると、どうしていゝのか、どんな方法をとつていゝのか、

結果をどう判断していゝのか、全く不案内であつた。この書は斯うした私達の要求に實にしつくりとすぐに役立つものである。四歳から學齡迄の子どもの、あらゆる心身の發達を複合的に、本邦幼児に適したものを、手をとる様に明細に説明してあり、單に問題が與へられてゐるのみでなく、いくらでもそれを應用出来る様に説いてゐる。

三人の著者がその道の大家であることは今更こゝに云々する迄もないが、その豊富な研究を綜合し、理論をわかり易く砕いて、方法から説明されてゐるので全く有難い。私達にとつて待望の書と言へるであらう。是非座右に備へて子ども達をもつと科學的に知る案内者とし度い。

(東京、フレーベル館 壹圓)

武田雪夫著

童話集 踏切ごっこ

内容は二十二の長短童話、著者は御承知の通り本誌に毎月執筆されてゐる新進の童話作家である。可成り前から、この道に絶

え間ない精進をされてゐる事はこの童話集だけでも充分うかがはれよう。殊に本集は最近の四五年間の作品の中から少年少女の爲にと選ばれたものである。活字の大きい、平假名の多い組み方と可愛い挿畫をみて、これを自分で讀んで楽しめる子ども達を目標にして居られることがわかる。

しかし決してそのせまい範圍にのみ向くのではない。この中の童話の内容は、年齢の範圍の可成り廣い子ども達の、生活のものなそのまゝお話とされてゐるので、幼稚園年齢の子ども達にとつても本當にいいお話が深山集められてゐる。そして特にこの集の童話でうれしいのは、童話のもつ文學的、教育的なものを、豊かに、しかもいかにも素直なさりりとした形でもつてゐるといふ點であらう。

これから梅雨期になる。雨の日、幼稚園で靜に子ども達とこの童話をよみ度いと楽しんでゐる。

(清水光子)

(東京、京橋、商榮ビル子供研究社 壹圓拾錢)